

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	動物における配偶子産生システムの制御
領域代表者	小林 悟（大学共同利用機関法人自然科学研究機構（共通施設）・岡崎統合バイオサイエンスセンター・教授）
研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、動物の配偶子産生システム制御機構を、動物種を超えて細胞自律的に機能する共通メカニズムに注目し、in vitro 系で配偶子産生過程を再現することによって解明を目指す提案である。動物の配偶子産生システムの解明は、生命の根幹をなす重要な課題であるだけでなく、生殖医療、水産、畜産の応用面への貢献も期待されるもので、社会的にも波及効果が大きく、新学術領域研究としてふさわしい。</p> <p>研究計画について、魚類やハエ、マウスなどを用いた in vivo 解析系と in vitro 解析系の連携によって、始原生殖細胞の形成や配偶子の産生システムに焦点を絞って検証していくという計画は成果が期待できる。一方で、ネットワーク解析については通常のカスケード解析に留まる可能性もあるので、遺伝子間の相互作用の全体像を明らかにするために、数理生物学的解析を加える必要があると思われる。また、領域の目標達成のためには、エピジェネティックな視点からの研究についても公募研究などで強化すべきであるとの意見もあった。研究組織については、それぞれの研究計画は明確で、役割分担や研究者間の連携などよく計画されている。一方で、研究支援体制を連携研究者に依存している点や、若手研究者育成に関する具体的な計画に乏しい点については、今後、具体的な改善策を検討すべきである。また、一部の計画研究代表者については、他の大型研究課題との研究内容の切り分けに留意することが必要である。</p>